

01

名古屋

東港中学校

サカ
酒 井 将 伍

分科会番号

02

分科会名

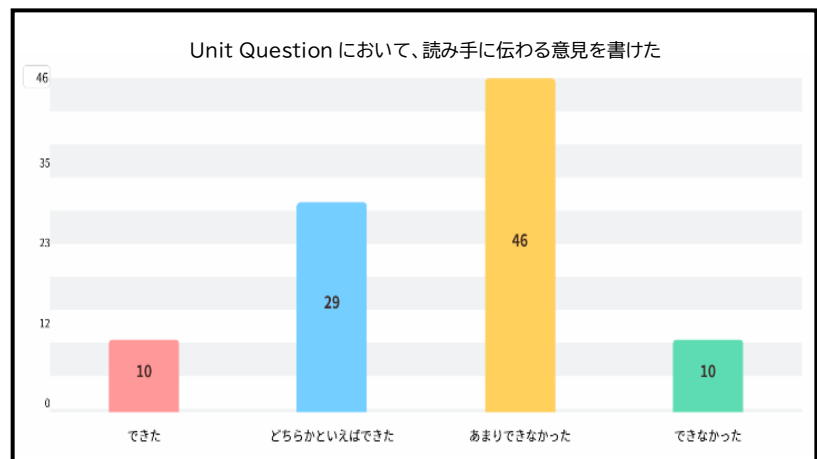
外国語教育

相手に伝わる英語で自分の考えを表現できる生徒の育成

1 研究のねらい

私は、相手に伝わる英語で自分の考えを表現できる生徒を育成したい。中学校学習指導要領外国語科では、日常的な話題や社会的な話題について、自分の考えなどを表現したり伝え合ったりすることができる力の育成が求められている。特に、社会的な話題に関しては、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことが重視されている。

しかし、本校の生徒は、日本語であれば自分の考えや意見をもつことができるものの、それを英語で表現することに課題が見られる。単元を通した問いである Unit Question に対する記述活動においても、自分の考えを書こうとする姿は見られるが、どのような表現を用いればよいか分からず、短い文で終わってしまったり、自分の考えが十分に伝わらない文章になってしまったりすることがある。また、今までの活動では、自分の考えを英語で表現しようとする中で、辞書



【資料1】 Unit1 終了後のアンケート結果】

サイトやインターネット上に示された語彙や表現をそのまま用いる生徒も見られた。しかし、その表現を十分に理解しないまま使用してしまうことで、自分が本当に伝えたい内容とずれた文章になったり、読み手に意図が伝わりにくくなったりすることがあった。これは、既習の語彙や文法を上手に活用して表現することを苦手としており、「伝わること」よりも「英語にすること」自体に意識が向いていたためであると考えられる。

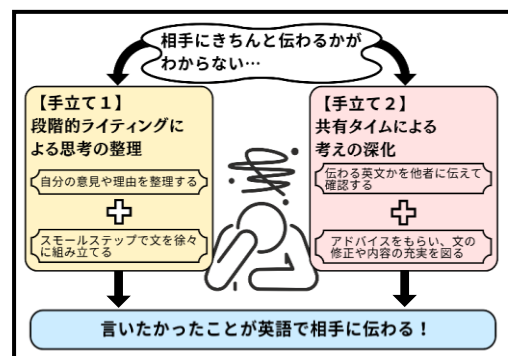
実際に Unit1 の Unit Question 終了後に行ったアンケートでは、「Unit Question において、読み手に伝わる意見を書けた」と回答した生徒は、「できた」「どちらかといえばできた」を合わせて 41.1%であり、全体の半数を下回る結果となった【資料1】。

また、生徒からは、「どういう文章を書いたらいいのか分からなかった」、「最初の文をどのように書けばいいか分からなかった」、「自分の言いたいことを英語にできない」などの記述も多く見られた。これは、これまでの指導の中で、書く内容を段階的に整理しながら表現する経験や、他者との交流を通して自分の考えを広げたり深めたりする経験が十分ではなかったためであると考えられる。

そこで、本研究では【手立て1】として、「段階的ライティングによる思考の整理」を行った。自分の意見を少しずつ整理しながら積み重ねさせることで、まとまった英文が書きやすくなると考えた。

また、【手立て2】として、「共有タイムによる考えの深化」を行った。他者の記述を読み合い、意見や表

現を共有することで、自分にはなかった視点や表現を取り入れたり、自分の考えを見直したりすることができると考えた。これら二つの手立てによって、Unit2 では相手に伝わる英語で自分の考えを表現できる生徒の育成を目指した。【資料2】



【資料2 実践の流れ】

2 研究方法

- (1) 対象生徒 名古屋市立東港中学校 第3学年3クラス (118名)
- (2) 実践单元 NEW HORIZON English Course 3 Unit 2 “How do you choose your clothes?”
- (3) 研究の手立て

実践1 自分自身の意見を英語で書く練習をしよう！

【ねらい】 身近な話題について自分の意見を積み重ね、Unit Question でまとめた意見を英語で書くことにつなげる。

【手立て1】 段階的ライティングによる思考の整理

本单元では、「How do you choose your clothes?」という Unit Question を設定し、エシカルファッションについて学習した内容を基に、自分の考えを理由や具体例とともに表現することを目指した。

授業の初めに Unit Question を提示したところ、生徒からは、「デザインで選ぶ」「値段で選ぶ」「サイズで選ぶ」などの意見が出された。一方で、Unit1 終了後のアンケートでは、「どうい文章を書けばいいかわからない」「質問にどう答えればいいかわからない」「最初の文をどのように書けばいいかわからない」という記述も多く見られた。

そこで【手立て1】として、Unit Question に対する考えをいきなり英文で書かせるのではなく、「自分の意見」「理由」「具体例」の順に段階的に考えさせながら記述させた。

＜実践の様子＞

まず、生徒が日本語で自分の考えを整理し、その後、学習した語彙や文法を活用しながら英文へと表現していった。また、教科書本文や活動プリントを活用しながら、自分の考えを支える理由や具体例を付け加えさせた。

このように段階的に思考を整理しながら記述することで、生徒が質問に正対した内容を書きやすくなるとともに、自分の考えを根拠とともに表現できるようになると考えた。さらに、記述後に自分の文章を見直させることで、意見は書けているか、理由は示されているか、具体例は入っているか、という観点から、自ら文章を改善することにつながると考えた。

活動を進める中で、生徒は「環境にやさしい服を選びたい」「フェアトレード商品を選びたい」「好きな服を長く着たい」など、学習内容と関連付けながら自分の考えをまとめることができていた。

Activity 3 あなた自身が衣服に関してエシカルであるために、どのような行動を取っていきたいですか。本文を参考にしてペアで伝え合いましょう。

Unit Question: How do you choose your clothes?

Activity 3 以下のいずれかを選択し、自分の意見を書いてみよう。(複数を組み合わせてよい)

- ① エシカルとはどのようなものか? エシカルって?
- ② 名古屋にあるエシカルな取り組みは?
- ③ 教科書本文を通じて感じたこと
- ④ エシカルであるために取るべき行動
- ⑤ 服を買う時に心がけること

Example

・I want to avoid ...ing ~.	...することは避けたいです。
・I will try to 動詞の原形.	...してみたいです。
・We should 動詞の原形 ~ to...	...するために~すべきです。
・If we ..., we can ~.	もし私たちが...したら、~できます。

Activity 3 今度は英語で書いてみよう。

【資料3 段階的ライティング】

実践2 読み手（聞き手）に自分の意見を伝えてみよう

【ねらい】 英語で書いた自分自身の意見が、読み手（聞き手）に伝わるように改善することができる。

【手立て2】 共有タイムによる考えの深化

段階的ライティングによって作成した文章を基に、生徒同士で記述を読み合う共有タイムを設定した。共有タイムでは、日本語で書いた意見をそのまま英語で書き、伝わりにくい文章にならないようにという教員からの注意事項も参考にしつつ、友達の文章のよいところや参考になった表現を書き留めたり、自分にはなかった視点を見付けたりする活動を行った。しかし、自分一人で文章を書くだけでは、考え方が固定化したり、内容が十分に広がらなかったりすることがある。そこで、他者の考えに触れる場を意図的に設定することで、多様な視点から Unit Question を捉えられるようにした。また、共有後には再度文章を書く時間を設け、交流によって得た考えや表現を取り入れながら、自分の文章を改善させた。



【資料4 共有タイムの指導】



【資料5 共有タイムの様子】

これによって、生徒は自分の考えを見直したり、新たな視点を取り入れたりすることができ、より具体的で説得力のある文章を書くことができると考えた。

＜実践の様子＞

共有タイムが始まると、それぞれの生徒が積極的にペアに自分の意見を伝え、聞き手は懸命にその内容をメモする様子が見られ、意識して話し手の伝えようとしている内容をつかみ取ろうとすることに集中する場面を作ることができた。その後、個々によってペアの発表の内容理解の度合いに差はあるものの、意見が英語で伝わったことを実感できるように、それぞれのできる範囲で話し手が伝えようとしていた内容を確認していた。生徒は互いの記述を読みながら、「その理由は分かりやすい」「その考え方はなかった」「その表現を使ってみよう」などの交流を行っていた。さらに、共有後の文章を書き直す時間では、疑問に思うことなどを話し合いながら、生徒は友達の意見や表現を取り入れ、より伝わりやすい英文を作ろうとする姿が見られた。

(4) 成果 (○) と課題 (●)

【手立て1】 段階的ライティングによる思考の整理

- 自分の意見、理由、具体例を段階的に整理しながら記述させたことで、多くの生徒が Unit Question に対して、まとまりのある文章を英語で書くことができた。
- 回収したワークシートは、教員が目を通すことで、各生徒がどれくらいの英文を書くことができるかを確認しながら進めることができた。また、Unit Question に向けてアドバイスやヒントを、よりの確に伝えるための資料にもなった。
- 例文を載せることによって、英語を書くことが苦手な生徒も例文を参考に作文をすることができた。英作文が得意な生徒にとっても、より多くの文を書くきっかけを作ることができた。
- 日本語から考える段階を必ず通ることで、自分の意見を明確にできるだけでなく、不明瞭な英訳があったとしても、教員の注意事項を基に、話し手が何を言いたかったのか、どのように文を変えれば伝わるようになるかを、日本語に立ち返って確認することで生徒同士でアドバイスをし合える場面があった。
- 日本語で意見を書いたが、英語でどう表すかが分からない場合、タブレットで調べたことをそのまま載せてしまう生徒は依然として一定数いた。

- 生徒のワークシートを見て理解度を確認することはできたが、返却をしてから同じワークシートで振り返りをする時間を確保することができず、アドバイスが有効活用できないことがあった。

【手立て2】共有タイムによる考えの深化

- 活動前に伝わりやすい英語を導くための注意事項を予め伝えておくことで、アドバイスをする際に「難しかった」「わかりやすかった」といった抽象的な感想に留まらず、伝わる英語にするための言い回しを積極的に相談し合う姿が見られ、活動の趣旨を理解して取り組んでいた。
- 一対一で自分の意見を伝え合い、ローテーションすることによって、発表する際の心理的不安を和らげることができた。
- ペアでの意見交換後、グループ内で話し合いながら原稿の修正をすることで、多方面からの意見を聞くことができる時間が増えた。
- ペアの意見を聞き取った内容をワークシートに書き留める時間が長く、話し手の伝えたいことを確認し終えるのに想定以上の時間を要した。
- 英語運用能力に差のあるペアの場合、お互いに意見を出しにくいということがあった。
- 口頭でアドバイスしあう生徒が一定数おり、意見の内容の聞き取りやアドバイスの仕方は、よりわかりやすく統一する必要があると感じた。

【手立て1・2を通した生徒の成長】 ※生徒の記述は全て原文のまま

<事例1 生徒A>

【①Unit 1 Unit Question 生徒 A の意見】

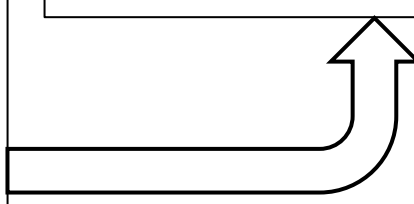
My favorite Japanese culture is fashion .Especially popular fashion is kimono.kimono is makes us happy. because It is beutiful.

【③Unit 2 Unit Question 共有タイム後の生徒 A の意見】

First , "ethical" means **morally good**.
We leaned about ethical fashion in class using the text book. I thought that we need to avoid impacting the environment,because I want to protect the environment.
 For example recycle**ing** clothes and reuse**ing** clothes.
Also,If I am going to buy clothes, I **will** buy **organic cotton**,because it is eco-friendly,like this I want to decide cerefully what to buy.

【②Unit 2 Unit Question 生徒 A の意見】

First of all "ethical" means moral.
 I leand in class about ethical fashion so,
 We need to avoid impacting the environment,
 because I want to protect the environment.
 For example recycle clothes and reuse clothes.
 If I am going to buy clothes, I am buy polyester,
 because it is eco-friendly,like this I want to decide cerefully what to buy.



【資料6 生徒 A のライティングの取り組み】

手立て1、2を通して、自分の意見を英語で書くことに対して成長が見られる生徒が多くいた。例えば上記の生徒Aは、①Unit 1 Unit Question では、文章量が比較的少なく、文法には目立つ誤りが複数あり、内容が伝わりづらいものになっていた。段階的ライティングを取り入れた直後の②Unit2 Unit Question では、明らかに文章量が増えており、教科書の内容や自分の意見を取り入れることができている。また、共有タイムを通して、内容に変化が見られる部分がある。例えば、教員と教科書やプリントを見ながら自分の意見と事実との相違がないかを相談したり、生徒同士での話し合いや意見共有によって “I am buy polyester,

because it is eco-friendly.” が “I will buy(choose) organic cotton because it is eco-friendly.” などのように、文意の一貫性や文法の正確さが改善された。他の部分に関しても、誤りを正そうとしたり、“I thought...” のように、自分の思いをより細かく表現しようとしたりする姿勢がみられた。

<事例2 生徒B>

右記生徒Bは、共有タイムを有効活用できた中の一人である。①Unit 2 Unit Question に初めて取り組んだ時には、教科書で学んだことを踏襲しているが、似たような表現を繰り返し使用しており、文章量に対して内容が比例していないことを初回提出時に教員から指摘した。

また、共有タイムでは、班員に意見を伝えることができたものの、「ずっと同じ、環境について話していて、話題をもっと身近に考えてみたほうがいいかも!？」と意見をもらっている。これらを受けて、今までに取り組んできたプリントを見返すように教員がアドバイスしたところ、③段階的ライティングを見返し、児童労働について書いていたことに気付いた。④共有タイム後の Unit 2 Unit Question の意見では、環境の話題に加え、児童労働についての思いも追加することができた。

他の生徒からも、「みんなの意見を聞いたり教え合ったりしたのがよかった」

「友達と意見交換することは Unit Question の答えの改善に役立った」「周りの子と意見を共有することで文章を修正できた」という意見が見られた。

以上のことから、共有タイムは生徒の考えを広げたり深めたりすることには有効な手立てであったと考える。

一方で、共有後も大きな変容が見られない生徒もいた。今後は、どの考えを取り入れたのか、自分の考えがどのように変化したのかを振り返る活動を取り入れることで、交流の効果をより高めていきたい。

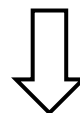
【①Unit 2 Unit Question 生徒 B の意見】

I choose clothes made of recycled materials because recycled materials is eco-friendny. Eco-friendry is very impotant.
I want to avoid buying many clothes because I care about environement.
If we try to avoid buying many clothes,we can protect enviroment.



【②共有タイムでもらったアドバイス】

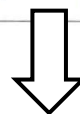
リサイクル素材はエコフレンドリーだから。環境に優しいのは大切。環境にやさしい。環境を大切に。	ずっと同じ、環境について話していて、話題をもっと身近に考えてみたほうがいいかも??
リサイクル素材の服を買う。エコフレンドリーな服を着よう。	もっと身近な話題で話そう。児童労働の問題も話そう。



【③段階的ライティングでの生徒 B の記述】

Activity 3 今度は英語で書いてみよう。

I was surprised to read text book because I knew about ethical fashion problem. Especially, I surprised problem about child labor. I don't want to make this environment in the future.
L: 子供は労働していいの? (Child labor is OK?)



【④Unit 2 Unit Question 共有タイム後の生徒 B の記述】

I choose clothes made of recycled materials because they are eco-friendny. I think Eco-friendry is impotant because I read the text book. If we try to avoid buying many clothes,we can protect enviroment.I knew child labor problem from textbook. I want to tell everyone about child labor.

【資料7 生徒 B のライティングの取り組み】

5 実践のまとめ

(1) 研究の成果

本実践では、「段階的ライティングによる思考の整理」と「共有タイムによる考えの深化」を手立てとして、「相手に伝わる英語で自分の考えを表現できる生徒の育成」を目指した。

【手立て1】では、自分の意見、理由、具体例を順に整理しながら記述させたことで、生徒は考えを明確にしながら英文を書くことができた。また、日本語で自分の考えを整理してから英語化する過程を取り入れたことで、自分が何を伝えたいのかを意識して文章を作成する姿が見られた。

【手立て2】では、共有タイムを通して他者の考えや表現に触れることで、自分の記述を見直したり、新たな視点を取り入れたりする姿が見られた。実際に、生徒Aは文法の正確さや内容の一貫性が向上し、生徒Bは環境問題だけでなく児童労働問題にも視点を広げることができた。

また、アンケートでは「Unit Question において、読み手に伝わる意見を書けた」と回答した生徒の割合が、Unit1 終了後の41.1%からUnit2 終了後には66.3%へ向上した【資料8】。このことから、二つの手立ては、生徒が相手に伝わる英語で自分の考えを表現する力の向上に有効であったと考える。

(2) 今後の課題

一方で、自分の考えを英語で表現する際に、語彙や表現の不足を感じる生徒も多く見られた。特に、自分の伝えたい内容を既習事項だけで表現することに不安を感じ、辞書サイトやインターネット上の表現に頼ってしまう生徒が一定数存在した。中には、その表現を十分に理解しないまま使用した結果、自分の意図と異なる内容になったり、読み手に伝わりにくい英文になったりする場合も見られた。

また、共有タイムでは大きな変容が見られる生徒がいた一方で、共有した内容を自分の文章改善につなげることができない生徒も見られた。そのため、共有後に「どの意見を取り入れたのか」「どのように文章を改善したのか」を振り返る活動を取り入れることで、共有したことをどのように取り入れると、と自分の文章の改善につながるのかということについて気付かせる必要があると考える。

さらに、相手に伝わる英語を書くためには、難しい表現を使うことではなく、自分が理解し活用できる既習の語彙や文法を使って表現することが重要である。今後は、既習事項を活用して自己表現する姿がより多く見られるよう、聞き手に伝わる言い換えを練習できる活動や、相手に伝わるかという視点で推敲する活動を充実させていきたい。

(3) まとめ

本実践を通して、生徒は自分の考えを整理しながら英語で表現するとともに、他者との交流を通して考えを広げたり深めたりすることができた。共有タイム後には、理由や具体例の追加、新たな視点の獲得など、多くの生徒に記述内容の充実が見られた。

以上のことから、段階的ライティングによって思考を整理し、共有タイムによって考えを深めることは、生徒が相手に伝わる英語で自分の考えを表現する力を育成する上で有効であったと考える。今後も、生徒が既習事項を活用しながら、自信をもって自分の考えを発信できるよう、指導の工夫を継続していきたい。

